

農業収奪から農業支援へと着実に転換しつつある中国

主任研究員 阮蔚(Ruan Wei)

1 はじめに

07年6月と7月の間、中国東北地域の内蒙古自治区と吉林省にある乳製品やバイオエタノール、アルコール、澱粉等加工メーカーを訪問し、同時に農村地域を回り、特に内蒙古自治区呼和浩特市和林格爾県北島拉板村、同自治区通遼市科爾沁区豊田鎮建新村、吉林省扶余県弓棚子鎮双勝村という三つの村を訪問した。農家へのヒアリングで印象深かったのは、政府に対する農家の不満が3年ほど前に比べて大分和らいだことと、穀物生産の収益性の向上により農家の穀物生産意欲が上昇し、出稼ぎの意欲が低下していることである。

出稼ぎを希望していても、労賃が今のままでは、村にとどまって農作業をしたほうが有利だと訪問先の多くの農家はいう。これはまさに最近の変化であるが、こうした変化をもたらしたのは、農業収奪から農業支援に転換しつつある胡錦濤政権の各種政策の実施である。

2 農業税の廃止

まず、農家にとって負担の重かった農業税は06年に全国的に廃止され、2600年以上も続いたこの悠久なる税目はようやく中国から消えることとなった。農業税の改革は00年から安徽省等で始まったが、廃止を明確に決めたのは04年であり、同年吉林省等地域で先行して実施された。農業税が全面的に廃止された06年に、農家の負担は、改革前の99年に比べて年間約1,250元の軽減となった。これは06年全国農家の平均所得の35%にも当たる。また、

農家所得は04～06年の3年間、年間平均11.0%の伸びとなった。

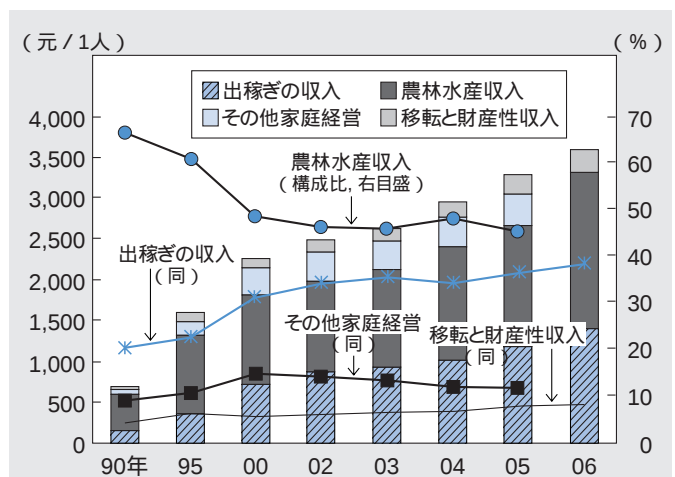
実は、農業税が廃止されるまでさまざまな名目の費用が便乗して徴収され、これらは特に所得の低い中部と西部地域の農家にとって重い負担となっており、耕作を放棄せざるを得ないケースが多発した。農業税の廃止により、便乗の費用徴収もしにくくなり、耕作放棄もなくなった。同時に、村や郷鎮の幹部に対して強かった農家の不満も一気に和らいだ。

3 直接支払い等農業支持策の実施

農業税が廃止されたのと同時に、穀物生産を奨励するために、04年から穀物を作る農家に直接支払いが行われるようになった。04～06年の3年間、穀物直接支払額は390億元となり、これは06年の中国の財政総支出の1%に当たる。

また、穀物の市場価格の下落による農家の

第1図 中国農家1人当たりの収入構成とその割合



資料 『中国統計年鑑』各年版

(注) 06年の農林水産収入にはその他家庭経営収入を含む。

収入減を防ぐために政府による最低価格での買付制度も実施されている。さらに、優良品種補助や農機具補助などの奨励策も講じられている。その結果、農家の穀物生産意欲が大幅に高まり、04年から06年まで連続3年の大豊作につながった。この3年間で増産したコメ、小麦、トウモロコシの生産量は合計で約7千万トンにも達した。

4 飼料や加工需要増による農産物価格の上昇

農家の穀物生産意欲の向上に穀物価格の上昇も大きく影響している。東北地域は中国で残された最大かつ最後のトウモロコシ供給余剰産地であり、この東北地域では近年トウモロコシを飼料にした酪農や畜産の発展が急速に進んでいる。中国の1位と2位の乳製品メーカーはともに内蒙古に立地しているため、でも内蒙古は中国最大の牛乳生産地となった。農家にとっては、乳牛の飼育で収入増の機会を獲得することができ、また飼料の需要増によるトウモロコシの価格の下支えも農家所得増加につながっている。

この東北地域では、澱粉やエタノールを含むアルコール等トウモロコシを原料にした加工企業も急増している。いま話題のバイオエタノール生産は、中国では4社が認められているが、そのうちの2社は東北地域に立地している。02～06年の間、トウモロコシの工業需要は年間平均約26%伸びている。こうした飼料と工業需要の急増により、トウモロコシの価格が04年から上昇に転じ、06年にその他農産物の価格上昇にもつながった。

5 労賃の上昇を示唆する農地委託の減少

農産物価格の上昇は農家の出稼ぎの機会コ

ストを高め、長年維持されてきた沿海地域の労賃の低位安定に終止符が打たれるようになった。つまり、交通費や家賃等出稼ぎ先での生活費などトータルコストと効果で考えると、農業支持策が開始された04年以降、農作業をしたほうが有利というケースが増えている。中国の沿海地域で労働力不足が最初に発生したのはまさに04年で、労賃が全面的に上昇し始めたのは、穀物価格が上昇し始めた05年である。今後も、農業支持策が継続されれば、企業労賃の上昇も避けられないであろう。

また、訪問した村の中で、近年増加傾向にあった農地の委託が縮小している話も聞いた。中国では、農地について農家は30年間の使用権を得ているが、農業税が廃止されるまで穀物を作るメリットが少なかったため、農地の使用権を他の人に委託して出稼ぎに行った農家が少なかった。しかし、04年以降、他人への生産委託をやめて、農作業を再開する農家が増えていると訪問した村の農家たちは語っていた。さらに、吉林省の双勝村では村の中で出稼ぎに出ている農家は比較的收入が低いという興味深い事実を確認した。

農家の所得が最近急上昇しているとはいえ、都市住民との格差は相変わらず巨大である。人口大国の中国で社会の安定と経済の持続的発展を求めるなら、あらゆる手段による農家収入の持続的上昇と農産物の安定供給が欠かせない。農家の生産規模は依然として日本よりも小さい状況の下で、農業労働力の農外移出と出稼ぎを継続して強化すると同時に、農業支援策の更なる強化等による農業所得の向上と農産物生産意欲の維持も不可欠であろう。

(リャン ウェイ)